

杉沢比山 景清



語り

景清は 妻のあこやにたばかられ、
吾妻のあこやは寺に参ると申せども寺
には参らず、はち面大王は岩を切て八
萬よじゆんにたたみあげ、くろがね門
をたてあたり、先づ一方を破るべし、
景清は障子の一重二重は物でなし、日
頃のなさけと申せども、あこや心はか
はるとも景清心はかるまじ。

舞いうた

君を始めて拝むには。
栄ふる松こそ目出変さよ
ハイエー。

あらすじ

景清は平家の侍
大将であつた。平家の
滅亡とともにも平家の
断つて死んだ。源氏の
いまず。

動きの持ちよう

景清と言う舞は、妻に裏切られた敗軍の武将のつらく苦しい心の中を表した演目です。



せんすをつかって舞うところは同じ動きをくり返しているそうです。